

2014
5・26

毎週月曜
第5週除く

第863号

週刊ビル経営

大谷巖一の物流不動産Biz

ABC



大谷巖一（おたにいわかず）イーソーコードットコム取締役会長・日本物流施設取締役。昭和56年東京運輸倉庫入社、平成14年東運開発取締役（現職）、同15年東京倉庫運輸を退職しイーソーコ総合研究所取締役副社長（現職）、同18年トーン取締役（現職）。日本物流学会等で講演多数。著書に「これからは倉庫で儲ける！！物流不動産ビジネスのすすめ」など。昭和35年生まれ。趣味はビジネス・読書・歴史探訪。

つけ出し、勤めてみた。その社長は、砂糖や香辛料を保管している現役の倉庫を「カッコいい」と気に入り、空いているスペースにホワイトキューブのおしゃれな写真スタジオを作り上げた。倉庫の改修事例を初めて目の当たりにし、びっくりしてしまった。ただし、その時は、倉庫を改修して利用する必要があるなどとは思わず、「キワモノ」な事例だと思っていた。

前回お話しした大型物流施設の大量供給による空き倉庫物件の増加の追い風に、物流不動産を専門とする会社が

前回の話した大型物流施設の大量供給による空き倉庫物件の増加の追い風に、物流不動産を専門とする会社が

前回の話した大型物流施設の大量供給による空き倉庫物件の増加の追い風に、物流不動産を専門とする会社が

物流不動産Bizの強み

第9回

このうち、建築部門との連携が最も強いのが、倉庫リノベーションだ。物流用途ではテナントが着きにくいのが、倉庫の大空間を生かし、通常のオフィスビルではできない創造的な空間を提供する。物流施設賃料はオ